

1984年 大会記録

国際

◇世界ジュニア選手権 (7月3～6日、米国ワシントンDC)

《フリースタイル》▼48kg級 岩間一人(青森・光星学高) = 3位、▼52kg級 金浜良(青森・光星学高) = 優勝、▼56kg級 松島一起() = 二失、▼60kg級 吉田実(茨木・霞ヶ浦高) 4位、▼65kg級 神鷹一彦(大阪・高石) = 二失、▼70kg級 関川一人(青森・光星学高) = 3位、▼75kg級 浅沼俊幸(青森・光星学高) = 2位、▼81kg級 宮崎一人() = 6位、▼87kg級 鈴木明(群馬・館林) = 3位、▼87kg以上級 出口一也(和歌山・和歌山東) = 3位

《グレコローマン》▼48kg級 笹山秀雄(青森・光星学高) = 2位、▼52kg級 塚田英樹(千葉・四街道高) = 5位、▼56kg級 = 派遣なし、▼60kg級 戸崎素成(岐阜・岐阜工高) = 二失、▼65kg級 倉館健(青森・光星学高) = 2位、▼70kg級 高木博章(兵庫・神戸西高) = 5位、▼75kg級 吉村周次() = 4位、▼81kg級 佐藤将人(新潟・新潟南高) = 5位、▼87kg級 上田正倫(千葉・八千代松陰高) = 4位、▼87kg以上級 平野稔(青森・八戸工大一) = 2位

◇ロサンゼルス五輪 (7月31日～8月11日、米国・ロサンゼルス)

《フリースタイル》▼48kg級 入江隆(自衛隊)、▼52kg級 高田裕司(群馬・館林高教)、▼57kg級 富山英明(日大教)、▼62kg級 赤石光生(日大)、▼68kg級 上村政和(日大)、▼74kg級 樋口直巳(奈良県体教)、▼82kg級 長島偉之(栃木・足利工高教)、▼90kg級 太田章(早大教)、▼100kg級 本田多聞(日大)、▼100kg級以上 石森宏一(大体大)

《グレコローマン》▼48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)、▼52kg級 宮原厚次(自衛隊)、▼57kg級 江藤正基(自衛隊)、▼62kg級 長内清一(三八教育事務所)、▼68kg級 根本誠次(茨城・藤代紫水高教)、▼74kg級 向井孝博(自衛隊)、▼82kg級 森山泰年(自衛隊)、▼90kg級 馳浩(石川・星稜高教)、▼100kg級 藤田芳弘(和歌山・和歌山北高教)、▼100kg級以上 安藤正哉(安藤コンクリート)

◇ワールドカップ=グレコローマン (11月9～11日、フィンランド・セイナジョギ)

5位 (1勝3敗1分け)

1回戦 日本● [2-8] ○フィンランド

2回戦 日本△ [5-5] △欧州選抜

3回戦 日本○ [6-4] ●エジプト

4回戦 日本● [0-10] ○ソ連

5回戦 日本● [2-8] ○米国

《個人成績》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）= 3勝2敗、▼52kg級 佐藤満（日体大研）= 2勝3敗、▼57kg級 大城利幸（自衛隊）= 2勝3敗、▼62kg級 野辺洋和（日体大）= 1勝4敗、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）= 3勝2敗、▼74kg級 谷一郎（群馬・沼田高教）= 1勝4敗、▼82kg級 屋比久保（国士舘大）= 2勝3敗、▼90kg級 武藤光一（日体大）= 5敗、▼100kg級 対馬正敏（自衛隊）= 1勝4敗、▼130kg級 浅井功（日体大）= 5敗

国内

◇ロサンゼルス五輪第4次選考会（3月1～1日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 入江隆（自衛隊）、▼52kg級 佐藤満（日体大）、▼57kg級 富山英明（日大教）、▼62kg級 赤石光生（日大）、▼68kg級 杉野浩吉（自衛隊）、▼74kg級 樋口直己（奈良県体協）、▼82kg級 長島偉之（栃木・足利工高教）、▼90kg級 太田章（早大教）、▼100kg級 本田多聞（日大）、▼100kg級以上 森康弘（山瀬農協）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg級 江藤正基（自衛隊）、▼62kg級 長内清一（三八教育事務所）、▼68kg級 中島光正（とりせん）、▼74kg級 向井孝博（自衛隊）、▼82kg級 森山泰年（自衛隊）、▼90kg級 馳浩（専大）、▼100kg級 藤田芳弘（和歌山県教委）、▼100kg級以上 松永清志（和歌山県教委）

◇全国高校選抜大会（3月30～31日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院高（4年連続5度目）、[2] 秋田・秋田商、[3] 鹿児島・鹿児島商工、岐阜・岐阜工

《個人戦優勝者》▼48kg級 笹山秀雄（青森・光星学院）、▼52kg級 近浦淳二（埼玉・埼玉栄）、▼56kg級 木村義治（青森・光星学院）、▼60kg級 戸崎素成（岐阜・岐阜工）、▼65kg級 倉館健（青森・光星学院）、▼70kg級 関川清人（青森・光星学院）、▼75kg級 浅沼俊幸（青森・光星学院）、▼75kg以上級 鈴木明（群馬・館林）

◇西日本学生春季新人戦＝フリースタイル（4月29日、大阪・桃山学院大）

《優勝者》▼48kg級 藤原亮（南九州大）、▼52kg級 土直博（鹿屋体育大）、▼57kg級 仮屋広和（徳山大）、▼62kg級 大河内幸保（福岡大）、▼68kg級 藤崎幸保（福岡大）、▼74kg級 原田芳生（徳山大）、▼82kg級 西田学人（桃山学院大）、▼90kg級 恒川寿正（同志社大）

※フリースタイルのみ実施

◇全日本選手権＝グレコローマン（5月4～5日、東京・代々木競技場第2体育館）

《優勝者》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg級 江藤正基（自衛隊）、▼62kg級 長内清一（三八教育事務所）、▼68kg級 根本誠次（茨城・藤代紫水高教）、▼74kg級 向井孝博（自衛隊）、▼82kg級 森山泰年（自衛隊）、▼90kg級 馳浩（石川・星稜高教）、▼100kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）、▼100kg級以上 安藤正哉（安藤コンクリート）

◇全日本選手権＝フリースタイル（5月12～13日、茨城・茨城県スポーツセンター）

《優勝者》▼48kg級 入江隆（自衛隊）、▼52kg級 高田裕司（群馬・館林高教）、▼57kg級 富山英明（日大教）、▼62kg級 赤石光生（日大）、▼68kg級 上村政和（日大）、▼74kg級 樋口直巳（奈良県体教）、▼82kg級 長島偉之（栃木・足利工高教）、▼90kg級 太田章（早大教）、▼100kg級 本田多聞（日大）、▼100kg級以上 石森宏一（大体大）

◇東日本学生リーグ戦（5月16～19日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（6年連続8度目）、[2] 専大

（A組）[1] 日体大、[2] 日大、[3] 法大、[4] 明大、[5] 大東大、[6] 拓大

（B組）[1] 専大、[2] 国士大、[3] 東洋大、[4] 東海大、[5] 山梨学院大、[6]

中大

◇西日本学生選手権（5月25～27日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 是永順次（福岡大）、▼52kg級 土直博（鹿屋体育大）、▼57kg級 国広幸信（徳山大）、▼62kg級 表正光（徳山大）、▼68kg級 田中正昭（同志社大）、▼74kg級 窪田直人（同志社大）、▼82kg級 恒川寿生（同志社大）、▼90kg級 笹部文男（福岡大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 是永順次（福岡大）、▼52kg級 田中智（関大）、▼57kg級 鍛冶将喜（近大）、▼62kg級 福川敦（桃山学院大）、▼68kg級 田中正昭（同志社大）、▼74kg級 足立涉（徳山大）、▼82kg級 恒川寿生（同志社大）、▼90kg

級 奥村広人（同志社大）

◇全日本社会人選手権（6月2～3日、埼玉・朝霞総合体育館）

《団体戦優勝チーム》▼官公庁 自衛隊、▼実業団 アイシン精機、▼クラブ 奈良クラブ

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg級 堀江（鳥取県協会）、▼57kg級 五十嵐淳一（自衛隊）、▼62kg級 橋浦晋（鳥取県協会）、▼68kg級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）、▼74kg級 梅木稔（自衛隊）、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）、▼90kg級 対馬正敏（自衛隊）、▼100kg級 保坂竹道（自衛隊）、▼130kg級 山本邦寿（滋賀県協会）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg級 大川秀和（奈良ク）、▼57kg級 大城利幸（自衛隊）、▼62kg級 飛田達也（自衛隊）、▼68kg級 作田勝広（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 福岡浩二（富治商品）、▼90kg級 東出徹（奈良ク）、▼100kg級 保坂竹道（自衛隊）、▼130kg級 秋山安成（自衛隊）

◇東日本学生春季新人戦（6月21～23日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐々木清文（東洋大）、▼52kg級 山下浩（日体大）、▼57kg級 清藤直博（国士舘大）、▼62kg級 森下敏清（日体大）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 角崎朋博（日体大）、▼82kg級 伊藤敦（日体大）、▼90kg級 武藤光一（日体大）、▼90kg以上級 本間和吉（専大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 田代清一郎（東海大）、▼52kg級 藤波俊一（日体大）、▼57kg級 中留俊司（日体大）、▼62kg級 小芦英夫（法大）、▼68kg級 大脇守（明大）、▼74kg級 長谷川幸生（東洋大）、▼82kg級 伊藤敦（日体大）、▼90kg級 武藤光一（日体大）、▼90kg以上級 浅井功（日体大）

◇西日本学生春季リーグ戦（6月29日～7月1日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 徳山大（5季ぶり5度目）、[2] 同志社大、[3] 福岡大、[4] 近大、[5] 関大、[6] 大体大

◇インターハイ（8月1～4日、秋田・五城目町広域体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院（3年連続5度目）、[2] 秋田・秋田商、[3] 鹿児島・鹿児島商工、茨城・霞ヶ浦

《個人戦優勝者》▼48kg 級 笹山秀雄（青森・光星学院）、▼52kg 級 金浜良（青森・光星学院）、▼56kg 級 岡田実（秋田・秋田商）、▼60kg 級 吉田実（茨城・霞ヶ浦）、▼65kg 級 倉館健（青森・光星学院）、▼70kg 級 関川清人（青森・光星学院）、▼75kg 級 浅沼俊幸（青森・光星学院）、▼75kg 以上級 出口一也（和歌山・和歌山東）

◇全日本学生選手権（8月28～31日、大阪・大阪府立体育会館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 小林孝至（日大）、▼52kg 級 上島一敏（国士舘大）、▼57kg 級 角地山豊（日大）、▼62kg 級 西真太郎（日体大）、▼68kg 級 赤石光生（日大）、▼74kg 級 平山宣伸（日体大）、▼82kg 級 安田紀久雄（日体大）、▼90kg 級 水橋徹（国士舘大）、▼100kg 級 本田多聞（日大）、▼100kg 以上級 猿田充（国士舘大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大橋正教（山梨学院大）、▼52kg 級 一色啓雄（専大）、▼57kg 級 我妻雄比古（日体大）、▼62kg 級 野辺洋和（日体大）、▼68kg 級 原喜彦（日体大）、▼74kg 級 山田幸広（日体大）、▼82kg 級 安田紀久雄（日体大）、▼90kg 級 武藤光一（日体大）、▼100kg 級 本田多聞（日大）、▼100kg 以上級 猿田充（国士舘大）

◇西日本学生新人戦（9月8～9日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級＝出場なし、▼52kg 級 保田昌伸（同志社大）、▼57kg 級 岡本好文（近大）、▼62kg 級 北風邦治（近大）、▼68kg 級 城崎公胤（同志社大）、▼74kg 級 国沢龍志（近大）、▼82kg 級 芳村昌秀（同志社大）、▼90kg 級 西田学人（桃山学院大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級＝出場なし、▼52kg 級 釧持俊昭（近大）、▼57kg 級 岡本好文（近大）、▼62kg 級 城崎城崎公胤（同志社大）、▼68kg 級 角南裕章（近大）、▼74kg 級 国沢龍志（近大）、▼82kg 級 芳村昌秀（同志社大）、▼90kg 級 恒川寿正（同志社大）

◇全日本学生王座決定戦（9月28～29日、東京・駒沢体育館）＝決勝成績

日体大○ [5 - 4] ●日大

※日体大は7年連続8度目の優勝

◇ワールドカップ代表選考会＝グレコローマン（10月4日、東京・青少年総合センタ

ー）

《優勝者》▼48kg 級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg 級 佐藤満（日体大研）、▼57kg 級 大城利幸（自衛隊）、▼62kg 級 野辺洋和（日体大）、▼68kg 級 大久保康裕（自衛隊）、▼74kg 級 谷一郎（群馬・沼田高教）、▼82kg 級 屋比久保（国士舘大）、▼90kg 級 武藤光一（日体大）、▼100kg 級 対馬正敏（自衛隊）、▼130kg 級 浅井功（日体大）

◇国体（10月13～16日、奈良・河合町立体育館、斑鳩高）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg 級 小林孝至（茨城・日大）、▼52kg 級 清水清人（宮崎・日南高教）、▼57kg 級 角地山豊（青森・日大）、▼62kg 級 栄和人（奈良・県体協）、▼68kg 級 五位塚悟（山梨・県運動場）、▼74kg 級 樋口直巳（奈良・県体協）、▼82kg 級 菊地隆（和歌山・県体育館）、▼90kg 級 茂木優（秋田・秋田商高教）、▼100kg 級 本田多聞（茨城・日大）、▼100kg 級以上 森康哲（徳島・山瀬農協）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 斉藤育造（和歌山・県教育庁）、▼52kg 級 宮原厚次（埼玉・自衛隊）、▼57kg 級 三宅正徳（岐阜・大垣養護学教）、▼62kg 級 野辺洋和（宮崎・日体大）、▼68kg 級 根本誠次（茨城・藤代紫水高教）、▼74kg 級 谷一郎（群馬・沼田高教）、▼82kg 級 屋比久保（沖縄・国士舘大）、▼90kg 級 東出徹（奈良・県体協）、▼100kg 級 天野貞雄（大阪・吹田クラブ）、▼100kg 級以上 安藤正哉（岐阜・安藤コンクリート）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg 級 笹山秀雄（青森・光星学院）、▼52kg 級 金浜良（青森・光星学院）、▼56kg 級 岡田実（秋田・秋田商）、▼60kg 級 安達巧（鹿児島・鹿児島商工）、▼65kg 級 倉館健（青森・光星学院）、▼70kg 級 関川清人（青森・光星学院）、▼75kg 級 浅沼俊幸（青森・光星学院）、▼81kg 級 本間弘明（山形・山形商）、▼87kg 級 鈴木明（群馬・館林）、▼87kg 以上級 間山泰範（北海道・岩見沢農）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 沖山功（茨城・霞ヶ浦）、▼52kg 級 近浦淳二（埼玉・埼玉栄）、▼56kg 級 小林照雄（新潟・巻農）、▼60kg 級 山田琢也（京都・宇治）、▼65kg 級 小泉徹（秋田・秋田商）、▼70kg 級 鳥首義隆（徳島・貞光工）、▼75kg 級 小林希（群馬・沼田）、▼81kg 級 浜田金彦（三重・鳥羽）、▼87kg 級 久米田雅勝（青森・光星学院）、▼87kg 以上級 出口一也（和歌山・和歌山東）

◇東日本学生グレコローマン選手権（10月20日、東京・駒沢体育館）

日体大○ [7-2] ●国士舘大

※

◇全日本大学選手権（11月17～18日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 小林孝至（日大）、▼52kg級 山下浩（日体大）、▼57kg級 角地山豊（日大）、▼62kg級 西慎太郎（日体大）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 平山宣伸（日体大）、▼82kg級 赤石明雄（国士舘大）、▼90kg級 水橋徹（国士舘大）、▼100kg級 本田多聞（日大）、▼100kg級以上 猿田充（国士舘大）

《大学対抗得点》[1] 日大（初）、[2] 日体大、[3] 国士舘大

◇東日本学生秋季新人戦（11月7～9日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 田代清一郎（東海大）、▼52kg級 岩本博行（国士舘大）、▼57kg級 倉田信幸（中大）、▼62kg級 西口茂樹（日体大）、▼68kg級 有延伸一（国士舘大）、▼74kg級 高橋信明（専大）、▼82kg級 坂野下喜三（日大）、▼90kg級 山本哲也（専大）、▼90kg以上級 呑香竜二（日大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 菅沢孝一（専大）、▼52kg級 吉村進（国士舘大）、▼57kg級 清藤直博（国士舘大）、▼62kg級 西口茂樹（日体大）、▼68kg級 有延伸一（国士舘大）、▼74kg級 角崎朋博（日体大）、▼82kg級 宮崎達也（大東大）、▼90kg級 中山淳（日体大）、▼90kg以上級 奈良英則（日大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月30日～12月2日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 同志社大（2季ぶり6度目）、[2] 福岡大、[3] 徳山大、[4] 桃山学院大、[5] 関大、[6] 近大